

公開実用平成3-13914 PT8148JAF  
Ref.(3)

⑨日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

平3-13914

⑬Int. Cl.<sup>5</sup>

A 45 D 34/04

識別記号

庁内整理番号

B 8608-3B

⑭公開 平成3年(1991)2月13日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑮考案の名称 塗布具付き化粧料容器

⑯実 願 平1-75166

⑰出 願 平1(1989)6月27日

⑱考案者 飯塚 茂雄 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内  
⑲出願人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号  
⑳代理人 弁理士 今岡 良夫

## 明細書

### 1. 考案の名称

塗布具付き化粧料容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

細長い有底筒の容器本体1の口部2にキャップ3を着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸41の先端に塗布先42を備えた塗布具4を垂設して、該塗布具を容器本体1内に深く挿入させて成る塗布具付き化粧料容器において、容器本体1内に螺旋体5を摺動回転可能に内装するとともに、準螺旋出方向にのみ回転するよう一方回り止め手段Aを講じ、また、上記軸41と螺旋体5との間に抜き差し自在な回転伝達手段Bを講じたことを特徴とする塗布具付き化粧料容器。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 「産業上の利用分野」

本考案は、マスカラ用等の塗布具付き化粧料容器に係るものである。

#### 「従来の技術と考案が解決しようとする課題」

従来、マスカラ用等のこの種の容器に、細長い

有底筒の容器本体の口部にキャップを着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸の先端に塗布先を備えた塗布具を垂設して、該塗布具を容器本体内に深く挿入させて成るものがある。

また、斯る容器において、容器本体の口部内側に、塗布具の引き出しの際、軸に付着した化粧料を搔き落とす手段を備えたものもある。

しかし、マスカラ等の液体化粧料は、粘度が高いため、容器が転倒した状態にあった場合等には、容器本体内の周壁に付着した化粧料は、容器を起立させても容易に下降せず、特に、その量が少なくなると、流動性が低下するために一層時間がかかり、ときには、かなりの残量があるにもかかわらず、これに気付かないで十分に使用しないこと、或いは、付着したままで硬化して、使用不能となることがある。

本考案は、斯る従来の欠点を除去しようとするものである。

#### 「課題を解決するための手段」

本考案は、細長い有底筒の容器本体1の口部2

にキャップ3を着脱自在に装着し、該キャップの内側から軸41の先端に塗布先42を備えた塗布具4を垂設して、該塗布具を容器本体1内に深く挿入させて成る塗布具付き化粧料容器において、容器本体1内に螺旋体5を摺動回転可能に内装するとともに、準螺出方向にのみ回転するよう一方回り止め手段Aを講じ、また、上記軸41と螺旋体5との間に抜き差し自在な回転伝達手段Bを講じたことを特徴とする。

なお、螺旋体5の下端に小カップ52を設けるとよい。螺旋体5の一方回り止め手段Aには、ラチェット機構を用いるとよい。また、回転伝達手段Bには、塗布具4の軸41を断面多角形に形成するとともに、該軸が抜き差し自在に嵌る多角孔55を有する回転体54を、螺旋体5の上端に配して、上記ラッチ機構と逆方向のラチェット機構を介して装備させるとよい。

#### 「作用」

如上の構成であるから、容器が転倒した場合等の際には、これを起立させて、キャップ3を適宜



に一方へ回転させればよく、これにより塗布具4の軸が回転し、回転伝達手段Bを介して螺旋体5が準螺出方向に回転して、容器本体1内の周壁に付着した化粧料を搔き落し、攪拌する。また、螺旋体5の下端に小カップ52を設けることにより、搔き落され攪拌された化粧料を塗布具4の塗布先42へ集めることが可能となる。

その後、塗布具4を引き抜いて化粧に供すればよい。

## 「実施例」

図面は、本考案の実施例を示している。

図示のものは、細長い有底筒の容器本体1の口部2に口筒21を内嵌固定させて、該口筒にキャップ本体31と外装筒32とから成るキャップ3を着脱自在に螺着し、そのキャップ本体31の内側から軸41の先端に塗布先42を備た塗布具4を垂設して、該塗布具を容器本体1内に深く挿入させ、上記口筒21内の上部と下部に、軸41に付着した化粧料を搔き落すスカート22、23を付設している。

容器本体1内には、一対の螺旋51、51の下端に



小カップ52を設け、上端にリング53を設けた螺旋体5を、螺旋51、51、小カップ52の上部及びリング53にて摺動回転可能に内装するとともに、準螺出方向にのみ回転するよう一方回り止め手段Aを講じている。

この一方回り止め手段Aは、上記小カップ52の外側にて容器本体1内下端に固定リング6を嵌合固定し、両者間にそれぞれ複数の縦突条11…、61…を設けて相互に回り止め係合させ、小カップ52の外周に鋸歯状の歯54を周設し、固定リング6にその歯54と噛合する一対の戻り止め爪62、62を設けて、螺旋体5が準螺出方向にのみ回転するラチェット機構を構成して成る。

また、塗布具4の軸41と螺旋体5との間に抜き差し自在な回転伝達手段Bを講じており、該回転伝達手段は、塗布具4の軸41の要部を断面多角形に形成し、該軸が抜き差し自在に嵌る多角形孔55を有する回転体54を、螺旋体5上端のリング53内へ回転可能に嵌合させるとともに、リング53内に鋸歯状の歯56を周設し、かつ、回転体54にその歯



# 公開実用平成3-13914

56と噛合する一対の戻り止め爪57, 57を設けて、上記一方向回り止め手段Aのラチエット機構と逆方向に作用する他のラチエット機構を構成して成る。

なお、図中、7は、パッキングである。また、以上の各部材は、合成樹脂製である。

如上の構成であり、容器本体1内には、マスカラ等の液体の化粧料を収容し、化粧に供するときは、従来同様にキャップ3を螺脱して塗布具4を引き抜けばよく、これに伴い、その螺脱の際には、軸41の回転が回転体54とそのラチエット機構を介して螺旋体5に伝達されて、螺旋体5が準螺出方向に回転し、該螺旋体の螺旋51, 51により容器本体1の周壁に付着した化粧料が搔き落されると同時に攪拌されて、螺旋体下端の小カップ6内に流入する。したがって、周壁に付着するわずかな化粧料も全て塗布具4の塗布先42へ供給されることになる。また、塗布具4の引き抜きの際には、塗布具4の軸41に付着した化粧料及び塗布先42の余分の化粧料がスカート22, 23により搔き落される。

次に、化粧終了後は、従来同様に容器本体1内へ塗布具4を挿入し、キャップ3を口部2へ螺合させればよく、この螺合の際には、螺旋体5の一方回り止め手段Aが働いて、つまり、ラチエット機構において戻り止め爪62、62が歯54に係合して、螺旋体5は回転せず、また、回転体54がラチエット機構においてスリップして空回りするので、キャップ3の螺合には支障を生じない。

#### 「考案の効果」

本考案によれば、螺旋体5の回転により容器本体1内の周壁に付着した化粧料を掻き落し及び攪拌でき、そして、周壁に付着するわずかな化粧料も塗布具4の塗布先42へと供給でき、したがって、収容された化粧料は全量を無駄なく使用できる。

また、螺旋体5の回転は、キャップ3を回転させるだけで、塗布具4の軸41を通じて行えるので、操作が容易であり、しかも、別個の操作機構が不要であり、構造を簡潔にでき、安価に提供できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は、本考案の実施例で、第1図は、截断側



# 公開実用平成3-13914

面図、第2図は、要部の分解截断斜視図である。

1 … 容器本体

2 … 口 部

3 … キャップ

4 … 塗布具

5 … 回転体

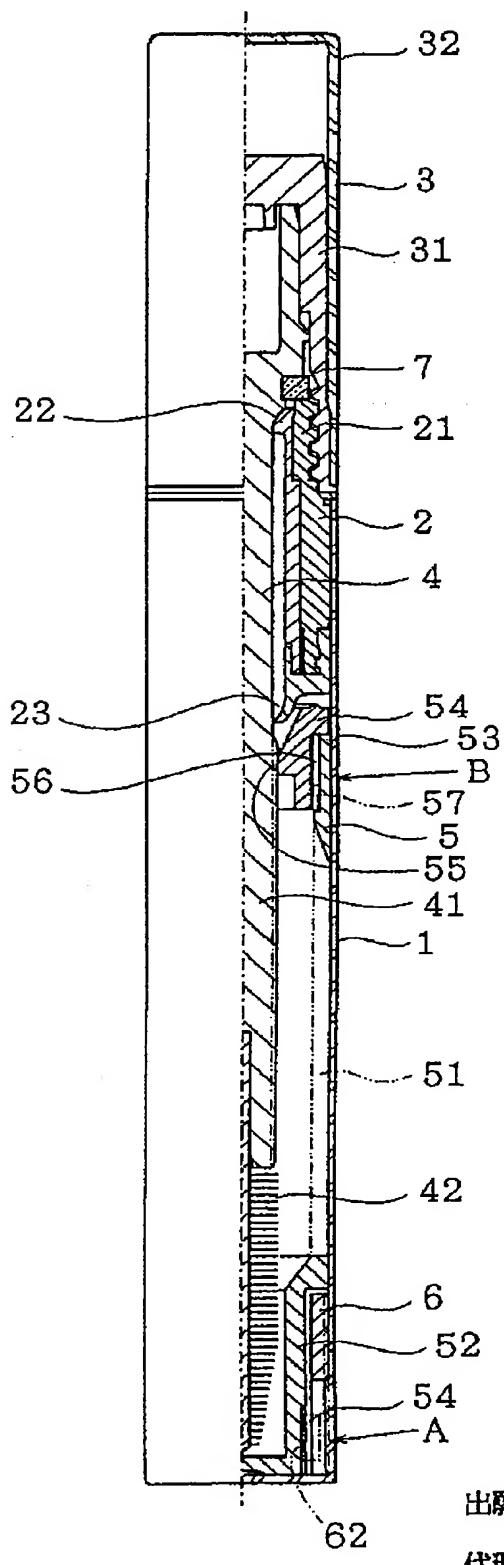
6 … 固定リング

出願人 株式会社 吉野工業所

代理人 弁理士 今岡良



# 第1図



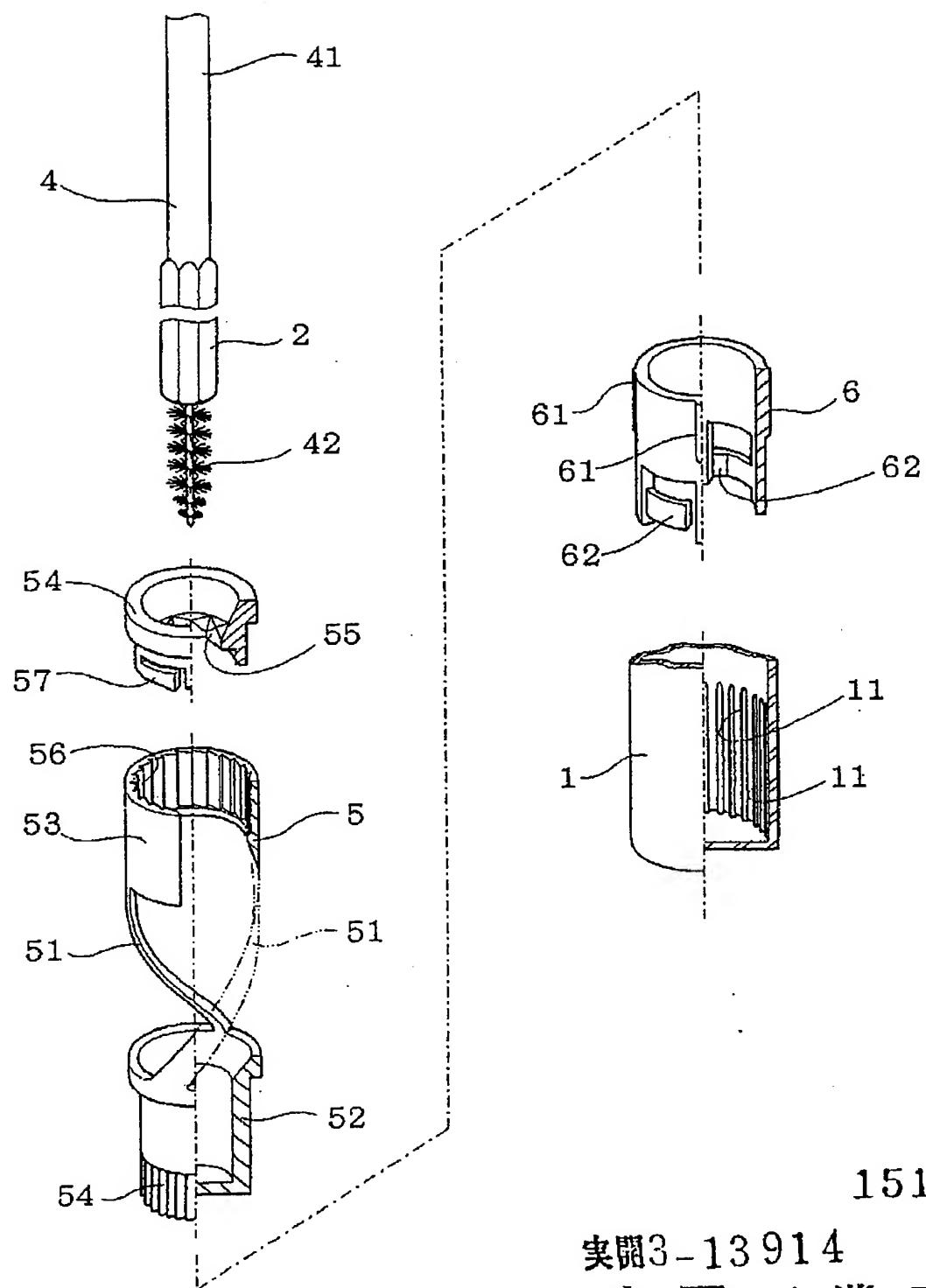
150

実開3-13914

出願人 株式会社吉野工業所  
代理人 弁理士今岡良



第2図



151

実開3-13914

出願人 株式会社 吉野工業所  
代理人 弁理士 今岡良

